

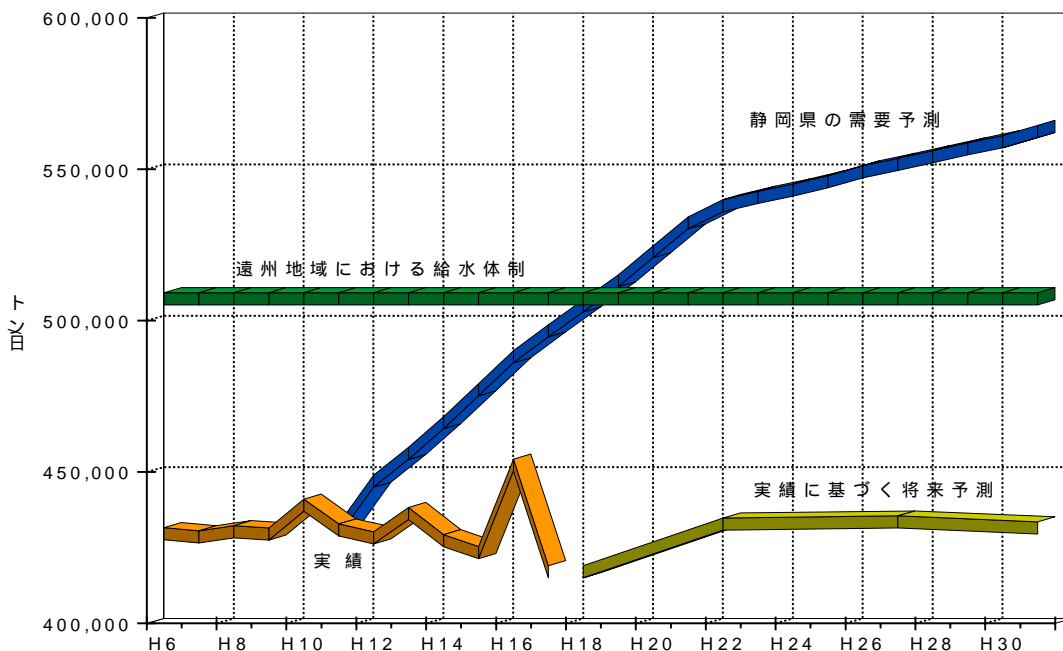
静岡県と各自治体の水増し問題

～ 太田川ダムからの水は不要だ！！～

静岡県の水増し

静岡県企業局は平成12年に遠州地域（遠州広域水道）における将来の水需要予測を行いました。しかし、その予測と平成17年までの5年間の実績を比べてみるとその差が大きくなっています。・・・静岡県の予測は僅か5年で約80,000トン（一日当たり）も過大であったことが分かりました。

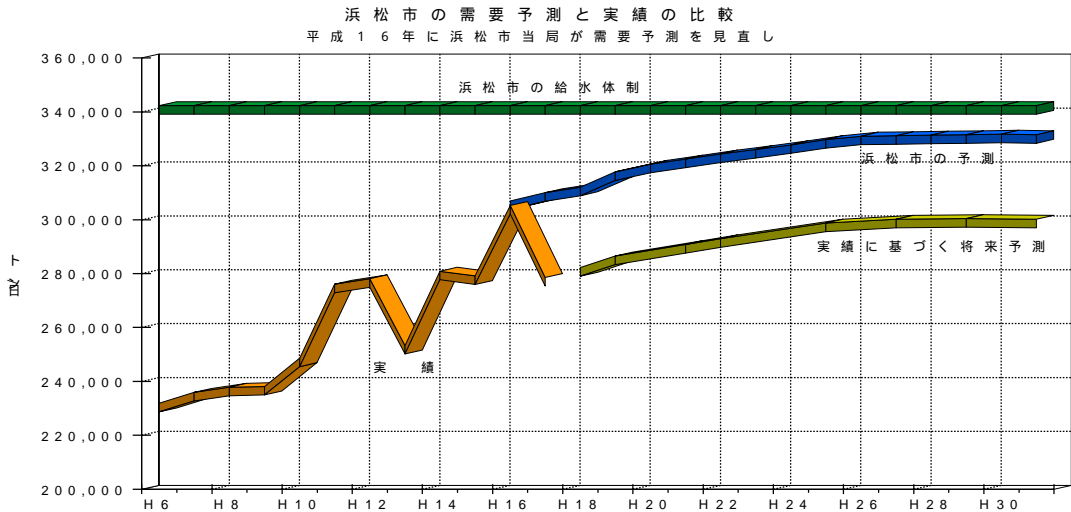
遠州地域全体の給水量の予測と実績
予測から5年で8万トンの差



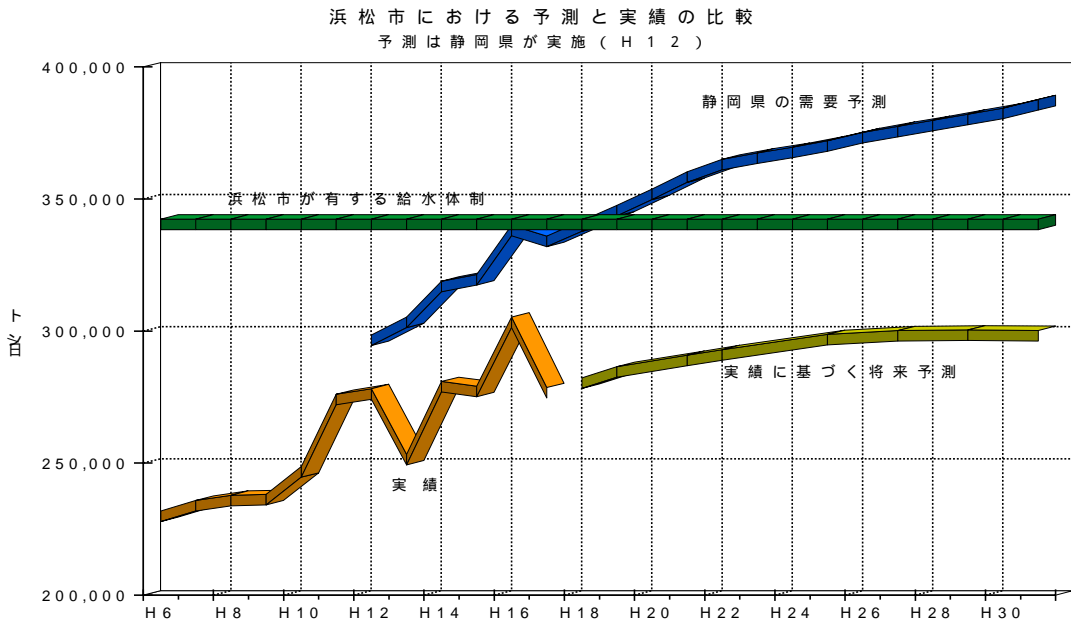
平成31年になると太田川ダムからの全面通水となりますが、「静岡県の予測」と「実績に基づく予測」との差は130,000トンに拡大し、給水体制に対して80,000トンも余裕がでます。・・・当然のことながら太田川ダムからの取水（取水計画は55,000トン）は必要ありません。

浜松市の水増し

浜松市の平成16年度末の需要予測に対して、その半年後には30,000トンの過大さが露呈しました。下のグラフのように、ピーク時に現行給水体制に対して40,000トンの余裕が見込まれ、太田川からの25,000トン受水は不要になります。



下グラフは、静岡県が浜松市のそれを平成12年に予測したものです。

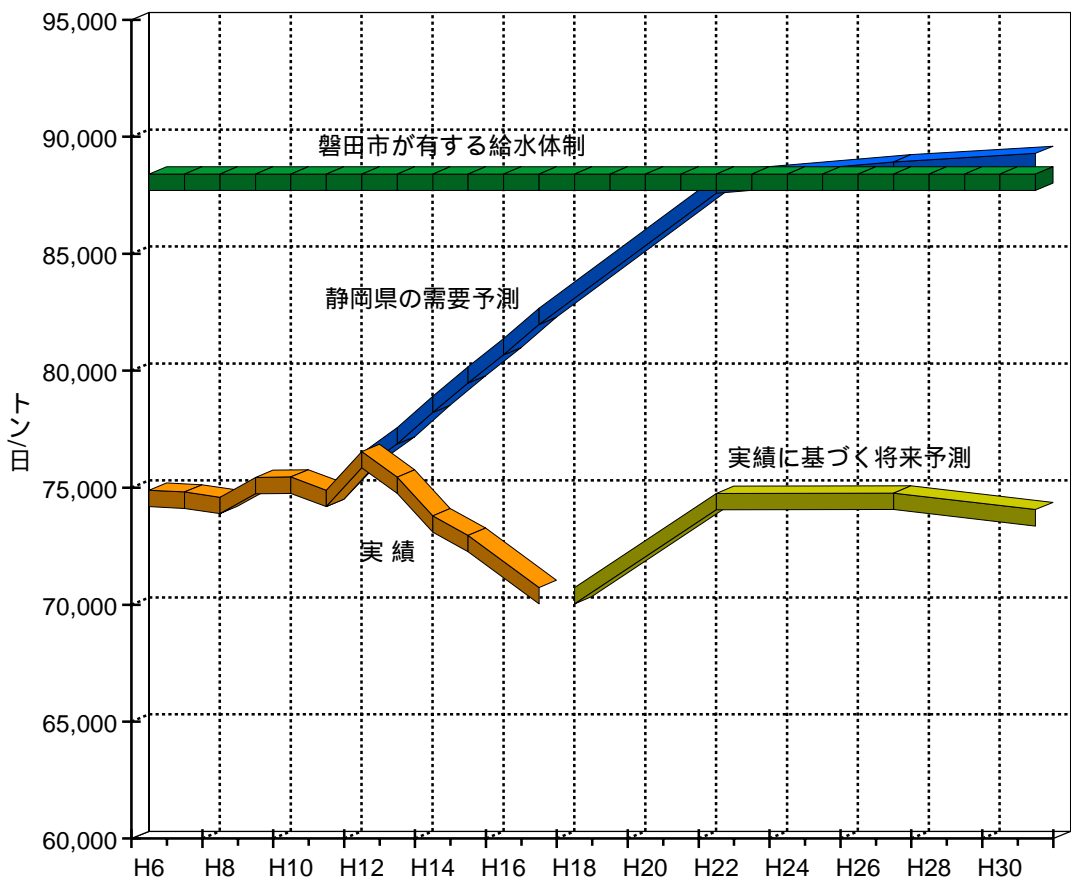


磐田市の水増し

予測と実績との乖離が拡大しています。(グラフのように) 実績に基づく将来予測をすると、ピーク時においても現行給水体制に対して15,000トン近くも余裕がでることが見込まれ、太田川からの受水(14,300トン)は不要になるものと思われます。

磐田市における需要予測と実績の比較

平成12年に静岡県が需要予測を実施



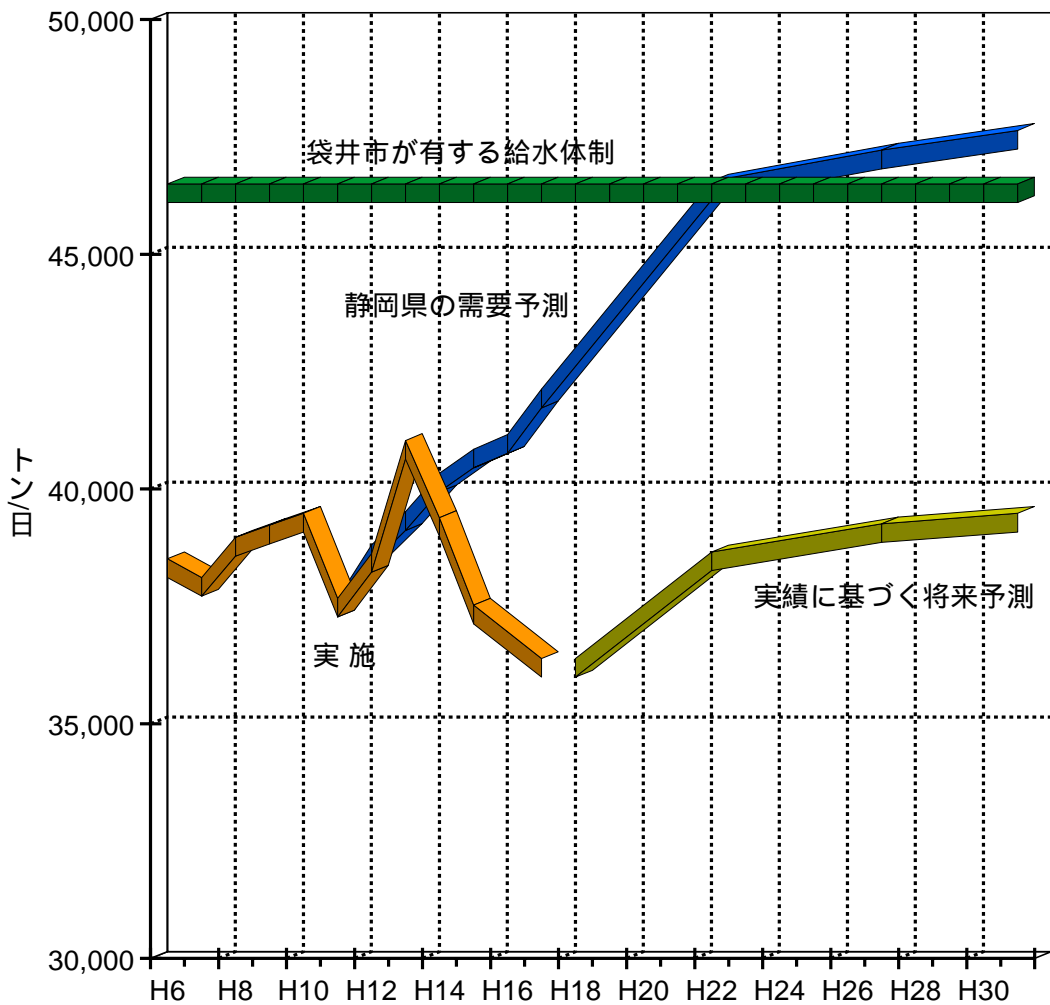
磐田市は『合併効果で余裕がでる』として、太田川からの受水の返上を表明しています。

袋井市の水増し

予測（H12）と実績（H12～H17）との乖離がますます拡大し、ピーク時にも現行給水体制に対して7,000トン近くの余裕が見込まれます。ここでも太田川からの受水（19,000トン）は不要になるものと思われます。

袋井市における需要予測と実績の比較

予測は平成12年に静岡県が実施

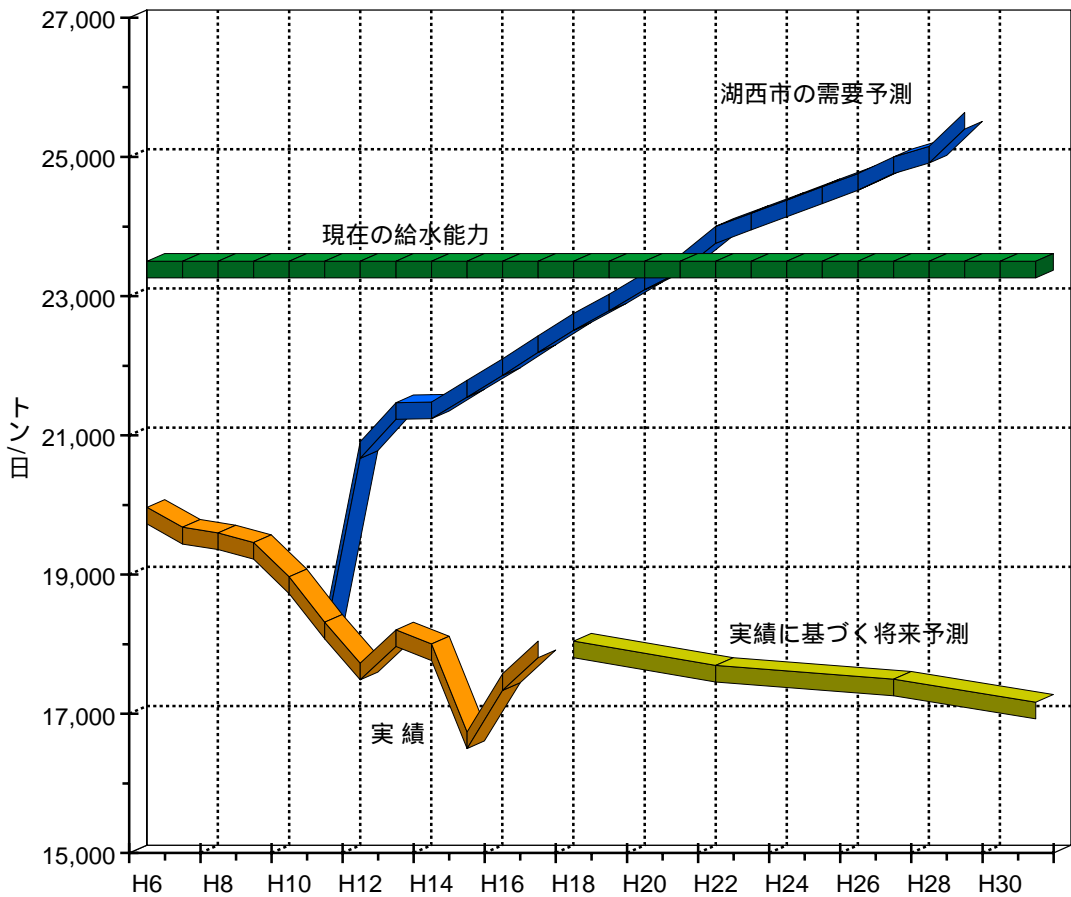


湖西市の水増し

湖西市による需要予測とその実績との乖離が拡大し、現行給水体制に対して6,000トン近くの余裕が見込まれ、太田川からの受水(3,000トン)は不要になるものと思われま

湖西市の予測と実績の比較

予測は平成12年に湖西市が実施



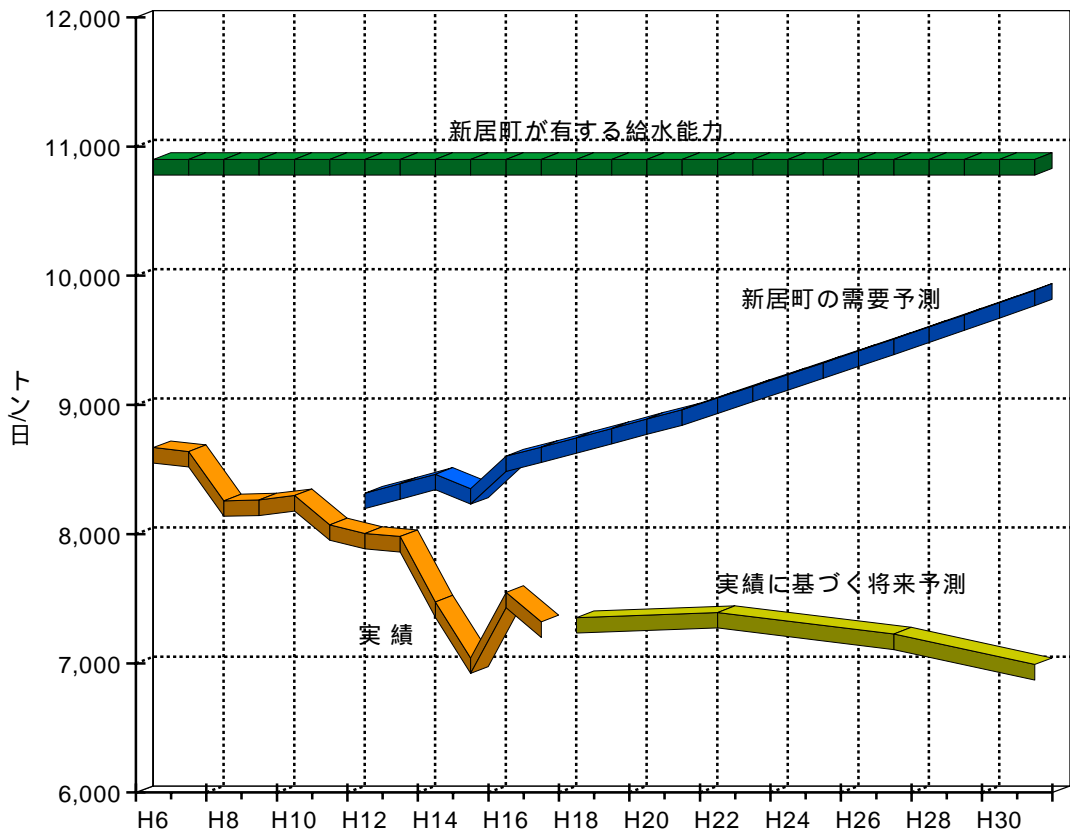
新居町の水増し

平成12年に新居町が行った需要予測と実績との差が拡大しています。給水体制に対して需要が間に合うようになっていますが（下グラフ）、平成31年の太田川全面通水時には、2,000トン不足するように井戸の休廃止を計画しているものと思われます。

しかし、実績に基づく将来予測と比較すると約3,000トンも過大になっていることから太田川ダムからの受水がなくても水不足になることはありません。

新居町の予測と実績の比較

予測は平成12年に新居町が実施



森町の水増し

平成12年度の需要予測で森町当局は、『将来的に4,000トン(日量)の水不足になる』としています。

森町の現在の給水能力は11,700トンあります。(下のグラフのように)森町の予測によると、平成30年にはたしかに4,000トン不足するようになっていきます。

しかし、平成12年～平成18年の実績を踏まえて将来の予測をすると、平成31年には不足するどころか(現在の給水能力よりも)4,000トンも余りができることになり、太田川から4,000トンも買うことになれば、その余りは毎日8,000トンになってしまいます。

森町の最大給水量の予測と実績の比較

